



エコアクション21

認証番号 0006564

環境経営レポート

(活動の期間：2018年6月～2019年5月)



土日対応BOD測定装置

美しく豊かな地球環境を次世代へ

Beautiful and prosperous global environment to the next generation

LABOTEC

ラボテック株式会社

発行日 2019年12月12日

ご挨拶

21世紀は環境の時代と言われ、弊社もその業務の一端をになっていることに責任と誇りを持っています。

私たちは【お客様の信頼】をもっとも大切にしており、これは私たちの行動の原点でもあり、目標でもあります。

お客様から要求されるニーズは、依頼を受ける私たちにとって大きな目標となり、お返しする成果をより適切なものとするよう努力する原動力ともなっています。

ニーズこそが私たちの成長の糧となっていることを考える時、お客様に育てられている私たちであると日々感謝しております。

環境分析部門（AN事業本部）は、社内独自の自動化により、よりスピーディーに精度よく、少人数でしかも安全にデータを出すことを行っています。自動分析装置開発部門（LA事業本部）は、環境分析の実務の中で、いかにすればハイスピードで高精度の自動化が可能か、手法が安全かを考えながら装置開発をしています。また、開発した装置を絶えず実稼働させ、検証し、信頼性のあるものを作り上げていくことに努めています。

また、エコアクション21活動を社内に導入し、環境負荷の低減を目指しています。

これからも私たちは、すべての行動を【お客様の信頼】をいただくという私たちの原点と目標につながるものとし、たゆまぬ実践をもとにお客様へ高い品質の成果品をお届けすることをお約束し、ご挨拶とさせていただきます。

代表取締役社長 吉川 恵





環境経営方針

わたしたちは自然から受ける豊かな恩恵によって生かされています。

その自然が本来の姿を維持し、美しく豊かなまま次世代へと引き継がれていくことを願っています。

わたしたちが自然のために出来ること、それは地球環境への負荷を軽減することです。

そのために、私たちは環境行動指針を定め、科学者として実行することを約束します。

環境行動指針

1. 環境関連法令を遵守します
2. 事業活動で使用する資源の削減等に取り組みます
 - ① 電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
 - ② 使用原材料の省資源、廃棄物の3R
(減量、再使用、再生利用)の推進
 - ③ 水資源の節水
 - ④ グリーン購入の推進
 - ⑤ 化学物質の適正管理
3. 機器製造業務で環境配慮型分析装置等の開発・製作・販売に取り組みます
4. 環境への取り組みを環境経営レポートとしてとりまとめ公表します

2011年2月3日制定

2018年8月1日改定



ラボテック株式会社

代表取締役 吉川 恵



事業所の概要

(1) 事業所名及び代表者名

事業所名 ラボテック株式会社

代表者名 代表取締役 吉川 恵

(2) 所在地（認証・登録範囲）

本 社・AN事業本部

広島県広島市佐伯区五日市中央六丁目9-25

L A事業本部

広島県広島市佐伯区五日市中央四丁目15-48

(3) 事業の概要

- 分析装置開発、製作、販売
- 環境分析、測定、調査
- 現地測定、受託分析、特殊分析
- 技術支援、共同研究、実験
- 新規事業



(4) 事業規模

売上高 約8億6600万円

資本金 5,000万円

事業年度 6月～5月

	本社・AN事業本部等	LA事業本部
従業員数(パート含む)	46名	18名
延べ床面積	740.3㎡	366.3㎡

(5) 対象範囲

本社・分析事業本部及びLA事業本部

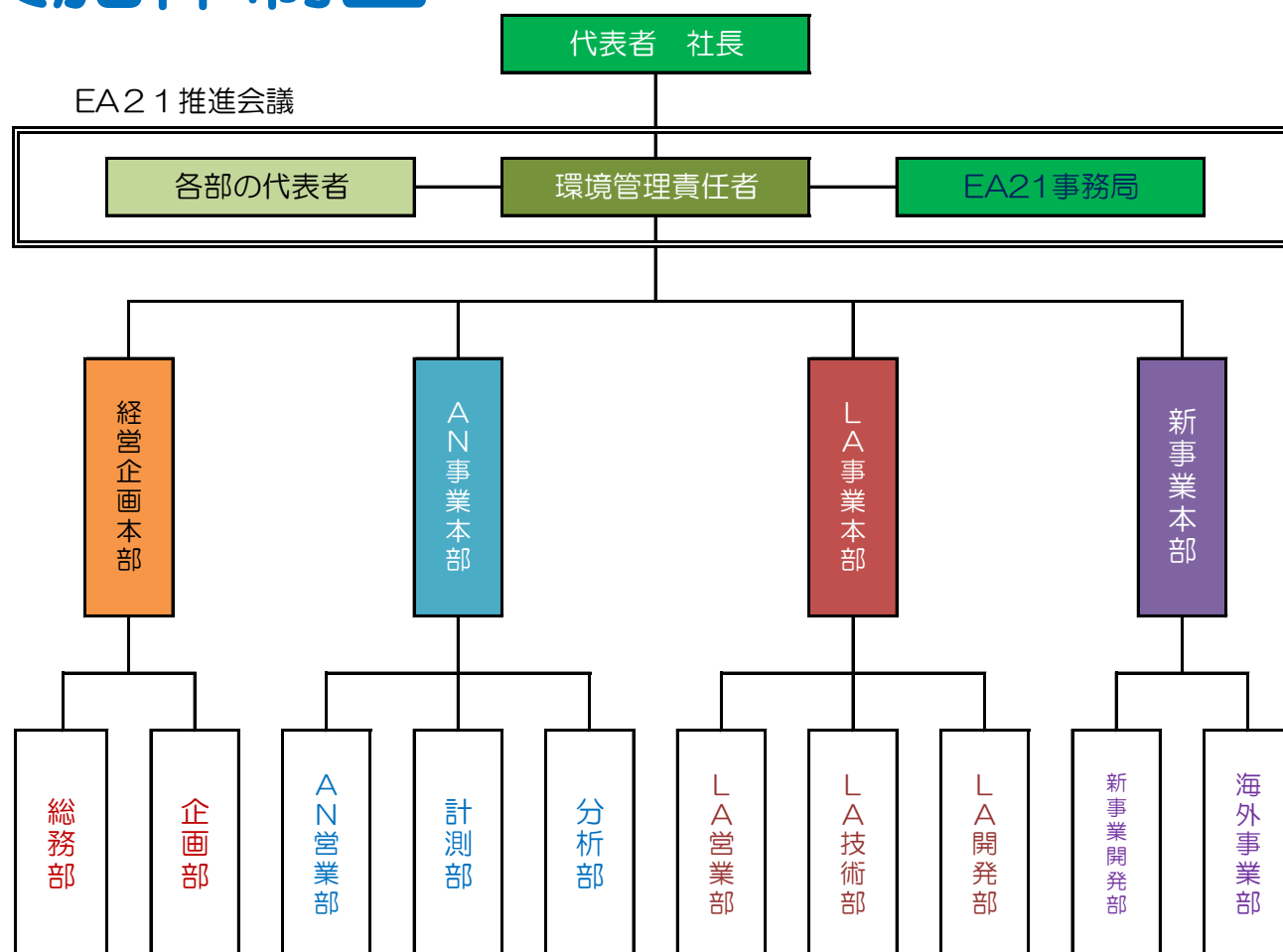
(6) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 古田 敦美

担当者(事務局) 新淵 大輔

TEL: 082-921-5531

実施体制図



代表者…エコアクション21の効果的な運用について、全責任がある

環境管理責任者…エコアクション21の運用について、実務を担当する

EA21事務局…環境管理責任者と各部の代表者を補佐する

各部の代表者…各部の部長はエコアクション21の運用について、各部における実務を担当する

環境活動紹介



休耕田だった田圃をお借りし
稲作などを行っています

会社周辺を定期的に
清掃しています



LA事業本部建物の屋根には
太陽光パネルを設置しています
発電を開始して3年です

本社・AN事業本部建物では
朝顔による壁面緑化を行っています
日陰と癒やしを提供してくれています



環境目標

			基準年度	2016年度 (基準年度)	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
二酸化炭素排出量	合計	t-CO ₂	2016年度	234,881	233,376	233,376	231,871	230,366
	電力	t-CO ₂	2016年度	基準年度 149,660	▲ 1% 148,164	▲ 1% 148,164	▲ 2% 146,667	▲ 3% 145,171
	ガス	t-CO ₂	2016年度	基準年度 0,841	▲ 1% 0,832	▲ 1% 0,832	▲ 2% 0,824	▲ 3% 0,815
	ガソリン 軽油	t-CO ₂	2016年度	基準年度 84,380	削減または維持 84,380	削減または維持 84,380	削減または維持 84,380	削減または維持 84,380
		百万円当たり kg-CO ₂	2016年度	基準年度 101.3	▲ 1% 100.3	▲ 1% 100.3	▲ 2% 99.3	▲ 3% 97.3
廃棄物	一般廃棄物	kg/年	2016年度	基準年度 3,380	▲ 1% 3,346	▲ 1% 3,346	▲ 2% 3,312	▲ 3% 3,279
	産業廃棄物	kg/年	2015年度	基準年度(2015) 3,041	▲ 1% 3,011	▲ 1% 3,011	▲ 2% 2,980	▲ 3% 2,950
水道使用量		m ³ /年	2016年度	基準年度 1,421	▲ 1% 1,407	▲ 2% 1,379	▲ 2% 1,393	▲ 3% 1,365
化学物質の適正管理			-	毎月の管理	毎月の管理	毎月の管理	毎月の管理	毎月の管理
環境関連事業の推進			-	対象製品 3台販売	対象製品 7台販売	対象製品 8台販売	対象製品 9台販売	対象製品 10台販売
グリーン購入の推進			2016年度	グリーン商品 購入率48%	グリーン商品 購入率50%	グリーン商品 購入率50%	グリーン商品 購入率52%	グリーン商品 購入率54%

(注) 電力の二酸化炭素排出係数は、中国電力(株)の2012年度の値、0.738kg-CO₂/kWhを用いています。

(注) ガソリンの使用量は、業績に連動して増減する為、2016年度より売上百万円当たりの排出量として計算し、活動をする事としました。使用量(CO₂排出量)は判定には使用しませんが、削減または維持を目指します。

(注) “環境関連事業の推進”の対象製品は、2018年度から新型自動BOD測定装置と新型土日対応自動BOD測定装置に加えフラン瓶洗浄装置、DO測定機能付き全自動希釈とします。

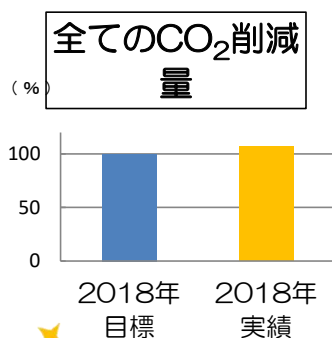
(注) “グリーン購入の推進”は、(グリーン購入商品個数/購入個数)×100(%)で評価します。

実績

実績			2010年度		2014年度		2015年度		2016年度 (基準年度)		2017年度		2018年度	
			全体		全体		全体		全体		全体		全体	
			本社	LA	本社	LA	本社	LA	本社	LA	本社	LA	本社	LA
二酸化炭素排出量	合計	t-CO ₂	94.01		271.55		247.87		234.881		251.883		250.092	
			78.91	15.10	221.90	49.65	197.81	50.06	185.75	49.13	198.901	52.983	200.076	50.017
	電力	t-CO ₂	66.06		158.34		150.95		149.660		163.411		162.133	
			51.06	14.99	135.18	23.16	126.86	24.10	123.35	26.31	136.749	26.662	138.220	23.913
	ガス	t-CO ₂	27.96		15.10		0.81		0.841		0.846		0.979	
			27.85	0.11	15.10	0.00	0.80	0.02	0.802	0.039	0.813	0.033	0.970	0.009
	ガソリン 軽油	t-CO ₂	0.00		98.11		96.10		84.380		87.626		86.980	
					71.62	26.49	70.15	25.95	61.60	22.78	61.338	26.288	60.886	26.094
百万円当たり kg-CO ₂					-		-		101.3		101.1		98.2	
廃棄物	一般廃棄物	kg/年	4472		3,974		3,974		3,380		3,616		3,455	
			3660	812	3229.0	745.2	3244.3	729.6	2635.3	744.2	2803.4	812.3	2682.4	772.6
	産業廃棄物	kg/年			-		3041 (基準年度)		4155 (基準は2015年度)		2,919		4,158	
水道使用量		m ³ /年	2,413		2,338		1,849		1,421		1,360		1,445	
			2247	166	2253.0	85.0	1752.0	97.0	1324.0	97.0	1270.0	90.0	1344.0	101.0
環境関連事業の推進			新製品2機種開発		対象製品 7台販売		対象製品 5台販売		対象製品 9台販売		対象製品 12台販売		対象製品 23台販売	
グリーン購入の推進			グリーン商品の 調査		グリーン商品 2種の購入		グリーン商品 9種の購入		グリーン商品 19種の購入		グリーン商品 購入率46%		グリーン商品 購入率50%	

有害性の化学物質について、その種類、使用量、保管量、使用方法、使用場所、保管場所等を経時的に把握し、記録・管理を行っています。管理状況は毎月末に確認し、記録に残す一方で、不必要な在庫量の削減に取り組んでいます。

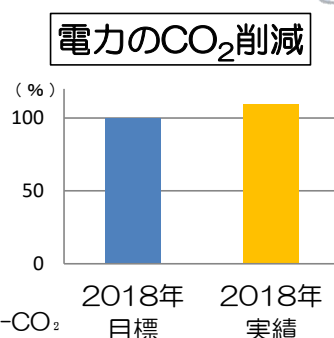
目標と実績の比較グラフ



7.2%増

増加...
残念...

目標：233,376t-CO₂
実績：250,092t-CO₂



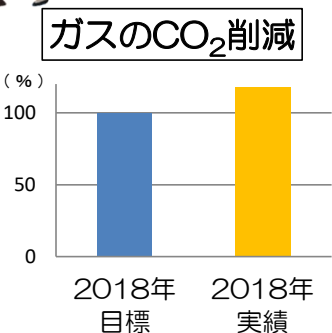
9.4%増

増加...
残念...

目標：148,164t-CO₂
実績：162,133t-CO₂



太陽光発電設備は1年間で20,428kwhを発電。
LA事業本部での電気使用量の約63%分を発電しました!

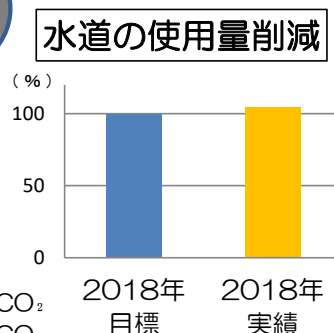


増加...
残念...

17.6%増



目標：0.832t-CO₂
実績：0.979t-CO₂



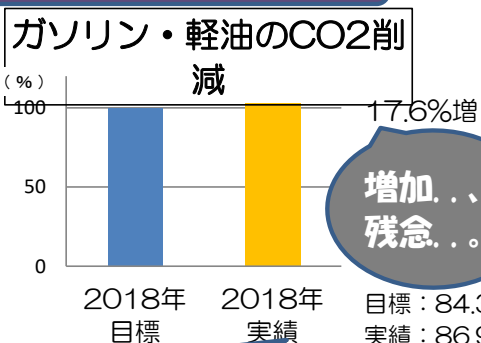
増加...
残念...

4.8%増



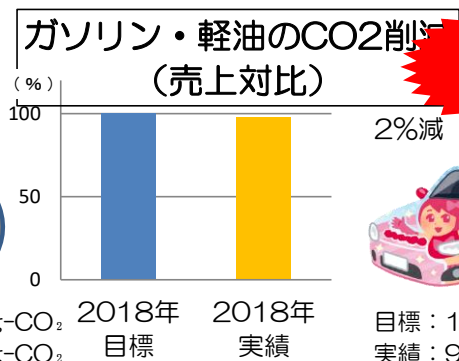
目標：1379m³
実績：1445m³

小さい使用量は維持中!!



増加...
残念...

目標：84.38kg-CO₂
実績：86.98kg-CO₂

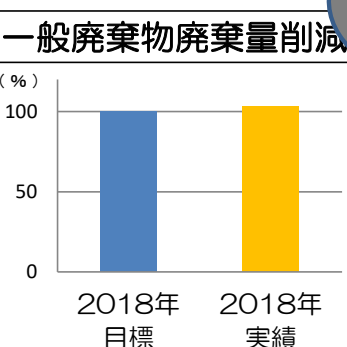


達成!!!!



目標：100.3kg-CO₂/百万円
実績：98.2kg-CO₂/百万円

売上あたりの発生量は削

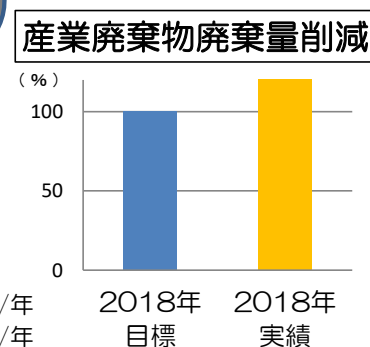


増加...
残念...

3.3%増



目標：3346kg/年
実績：3455kg/年



増加...
残念...

38.1%増



目標：3011kg/年
実績：4158kg/年

環境活動の取組み計画・評価及び次年度の取組内容

環境活動の取組みの達成状況は以下になっています。全体的に未達となった目標が多く、次年度に向けて課題の残る2018年度となりました。

取組み計画	達成状況(年間)	単位	評 価（結果と今後の方向）	
電力及びガスの削減 ・最適温度の管理 ・クールビズ・ウォームビズ ・ドアの開け放しの防止 ・空運転の防止 ・休憩時間中の電気の消灯 ・帰宅時にパソコン等の 元電源オフ ・その他意見の取りまとめ	電力		目標未達…。 昨年度は未達のため目標値は据え置きとして取り組んだが、未達となった。昨年度の達成率90.7%に対し0.4%改善したが、使用機器などの増もあり消費電力削減が困難な部分も増えている。努力できる部分について科学的で具体的な節電対策と、従業員皆の意識の向上に引き続き取り組む。	
	基準年度	149,660		t-CO ₂
	目標	148,164		1%削減
	実績	162,133		
	達成率	91.4%		
	ガス			目標未達…。 昨年度は未達のため目標値は据え置きとして取り組んだが、未達となった。目標値を達成することはできなかったが、用途は冬季の洗い物程度で、使用量は少ない水準を維持している。既に削減限界に達している状況だが、節約意識は継続する。
基準年度	0.841	t-CO ₂		
目標	0.832	1%削減		
実績	0.933			
達成率	89.2%			
自動車使用量の削減 ・エコドライブ 運動展開 ・アイドリングストップ ・急加速の抑制 ・日常点検の実施 ・ノルマーデー推進 ・その他意見の取りまとめ	基準年度	84,380	kg-CO ₂	目標未達…。 CO ₂ 発生量は基準に対して若干の増加となっている。削減目標は別に定める単位売上額で管理するが、CO ₂ 発生の絶対量を減らす試みを進める。
	目標	84,380	維持	
	実績	87,623		
	達成率	96.3%		
	基準年度	101.30	kg-CO ₂ /百万円	
	目標	100.30	1%削減	
実績	98.23			
達成率	102.1%			
一般廃棄物の削減 ・裏紙使用 ・ミスピントの低減 ・電子メディア等の利用 ・両面印刷の徹底 ・使用済み封筒の再利用 ・分別回収 ・その他意見の取りまとめ	基準年度	3,380	kg	目標未達…。 昨年度は未達のため目標値は据え置きとして取り組んだが、未達となった。昨年度の達成率92.5%に対し4.3%改善した。業績好調によるゴミの発生が増加傾向という事情も考えられる。ゴミの分別の意識の浸透は進んでいる。引き続きゴミの発生を減らす試みを模索する。
	目標	3,346	1%削減	
	実績	3,455		
	達成率	96.8%		
産業廃棄物の削減 ・ゴミ分別の徹底	基準年度	3,041	kg	目標未達…。 社内に保管されている不用品等は定期的に廃棄している。今年度は増加となったが、廃棄物を溜め込まない文化は定着しているとも言える。3Rと合わせて取り組んでいく。
	目標	3,011	1%削減	
	実績	4,158		
	達成率	72.4%		
節水 ・節水呼びかけ ・タイマー活用による節水	基準年度	1,421	m ³	目標未達…。 既に削減が進んでいる状況にあるが、大きく目標を下回る未達となった。節水に繋がる分析装置等の導入や、流し台での水の管理など、できる対策を継続する。
	目標	1,379	2%削減	
	実績	1,445		
	達成率	95.4%		
グリーン購入の推進 ・エコマーク商品の購入 推進	基準年度	48.0	%	目標達成!! 事務用品はエコマークなどの選定が定着している。品目×個数で評価し、目標達成となった。
	目標	50.0	%	
	実績	50.4	%	
環境関連事業の推進 ・新型自動BOD測定装置、 新型土日対応自動 BOD測定装置の販売	基準年度	-		目標達成!! 2017年、2018年度に続き目標を大きく上回る販売台数となった。限られた業種向け高額商品のため、2019年度は堅実な目標をたてる。
	目標	8台販売		
	実績	23台販売		

環境関連法規制等の順守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りでした。

適用される法規制	適用される施設等
下水道法	ドラフトチャンバー、流し
水質汚濁防止法	ドラフトチャンバー、流し
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物、特別管理産業廃棄物
広島環境保全条例	騒音関係特定施設 金属研磨機
毒物及び劇物取締法	劇物・毒物

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。
また、過去3年間にわたって違反や訴訟も発生していません。

外部からの苦情などの受付状況及び対応結果

苦情内容	場所	苦情時期	詳細と対応等
分析装置の排気装置の騒音 ・ ドラフトチャンバーの排気装置の騒音 〈苦情なし・自主改善〉	本社	2019年4月	本社に隣接する住宅の方から、夜間、排気装置の稼働音が気になる旨の苦情を受けました。排気装置は本社2階分析室に設置されている分析装置のものと特定しました。設置されている排気ファンは必要最小限の排風量を保証するものより、やや高出力のものですが、また新しく、不調による異音ではありませんでした。対策として、この分析装置の運用は昼間のみとして、昼間以外の時間帯(17時30分から8時30分)は使用を停止することとしました。対策以降、苦情はなく、当面はこの体制での分析装置運用を継続する予定です。 苦情を水平展開し、本社屋上に設置されているドラフトチャンバーの排気装置から発生している騒音についても、対策を行うこととしました。対策方法は防音シートの設置です。対策前は、社屋から少し離れた場所からも排気音が聞き取れていましたが、対策後はこれが軽減し、住宅地の生活騒音にまぎれて聞き取れなくなるまでに改善しました。

代表者による全体評価と見直しの結果

- 1) 電気・ガス共に設定目標を達成できませんでした。節電の意識は高まってきていると考えられますが、業績が良好を維持していることもあり、会社の稼働が高まった事情があります。また猛暑の夏の影響も少なからずあると考えられます。科学的・具体的な改善手法の導入を検討しつつ、出来る限りの節電を模索いたします。
- 2) 自動車燃料使用量は業務量の変動にも対応するため、売上額あたりのCO₂排出量で評価を行っています。燃料使用量は業績の好調もあり、前年度までより増加傾向にありますが、売上額あたりのCO₂排出量は目標達成となりました。自動車の使用自体の削減、エコドライブ運転の啓発、エコ配慮車両への変更などを行い、燃料使用量削減と、業務効率の向上に取り組めます。
- 3) 一般廃棄物は、業績好調もあり目標未達となりました。デジタル化、IT化によるペーパーレスや3R意識向上を更に進めます。
- 4) 産業廃棄物は目標未達となりました。一般廃棄物同様に3R意識向上を進めます。災害発生時の漏洩や火災など、会社周辺へのリスクを考えると、社内に溜める量は最小限に留めるよう、定期的な回収業者への引き渡しに努めます。
- 5) 節水は既に水道使用量が少なく維持している状況にあるが目標未達となりました。業績好調の影響もありますが、出来る部分での節水に努めてまいります。
- 6) グリーン購入は目標達成となりました。購入品も多量購入は慎重になり、過度の備蓄は控え、最小限度の使用に留めるエコ意識の浸透に努めます。
- 7) 環境関連事業の推進では、対象装置を計23台を販売しました。お客様の水道使用量、電力使用量の削減に寄与しています。販売継続していきます。

社会との約束

Promise with society

私たちラボテックは環境分析を中心として自然環境、生活環境、労働環境が
生命にとって優しく豊かになるように貢献します。

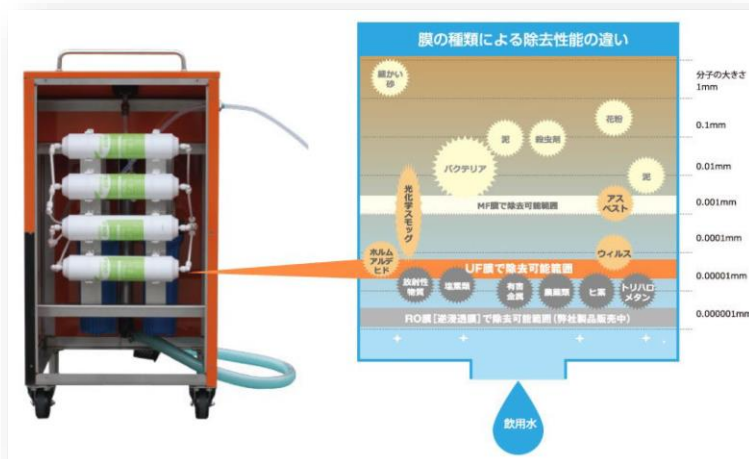
LABOTEC
ラボテック株式会社

社会貢献活動

弊社は2016年からNGOモヨ・チルドレン・センターを支える会を通して、アフリカ・ケニアの首都ナイロビから北東へ45km、地方都市ティカのカモ・チルドレンセンターの活動を支援しています。モヨ・チルドレン・センターは居場所のない子どもたちのための「家」を運営し、貧困からシンナー中毒に苦しむ子どもたちに長年寄り添い、安心できる場所を提供し続けられています。



弊社は資金の提供だけでなく、他社様と協働し、汚染された水を飲料水へと変える装置を2018年に設置しました。装置によって得られた水は弊社で分析、飲用に供しても問題ない分析結果という安心を、モヨ・チルドレン・センターに提供しました。



第一コンテク様製 手動浄水器

写真はモヨ・チルドレンセンターの松下照美様より提供